令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科　2年	科目名	高齢期作業療法治療学演習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	精神科・老年期病院勤務歴12 年	担当者	松尾　賢	授業方法	演習	単位数	2
到達目標	1　高齢期の身体的特徴を理解し、介入方法を実践できる。 2　実技やグループワークを通して、自らの課題を認識することができる。 3　集団運営を通して、人を動かすことの難しさを知ることができる。 4　集団運営を通して認知症の特性を理解することができる。			評価方法			
授業概要	脳血管障害、認知症を中心に老年期障害に対する作業療法を、日常生活に基づいた「機能維持」の介入。また、病院、施設入所者に対するアプローチの実際について学習する。			期末試験　100% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	標準作業療法学　高齢期作業療法学	使用器材	パソコン、パワーポイント				

週	授 業 項 目 ・ 内 容	実施結果
第1週	「高齢期の特徴」とは。前期の講義を振り返り、ポイントを整理する。	
第2週	ボディメカニクス(心と身体の繋がりを実技を通して学ぶ。)	
第3週	基本的動作介入法 (起居・移動・寝返り・起き上がり)①動作のコツを学ぶ。	
第4週	基本的動作介助法(起居・移動・起き上がり)②	
第5週	虚弱高齢者へのアプローチ①(食事動作においてのポイントを理解する。)	
第6週	虚弱高齢者へのアプローチ②(更衣動作におけるポイントを理解する。)	
第7週	虚弱高齢者へのアプローチ③(排泄動作・入浴動作の方法とポイントを理解する。)	
第8週	認知症高齢者へのアプローチ(介入方法と効果・注意点について理解する。)	
第9週	面接の心得(臨床で実施される様々な面接形態を体験を通して理解する)	
第10週	面接技法　評価(臨床で必要なスキルである為、学生間で繰り返し練習を行う)	
第11週	集団レク導入について(導入のポイントを体験を通して学ぶ。)	
第12週	集団レク実践について(実践を通して、集団の効果と運営の難しさを理解する。)	
第13週	集団レク実践レビュー(グループワークを展開し、改善是正点を認識できる。)	
第14週	期末試験対策	
第15週	まとめ	
授業外 学習指示等	グループワークや実技を多様する為、事前準備を行い、かつ積極的に参加すること。	

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科　2年	科目名	地域作業療法学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	松尾　賢	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1　地域作業療法と院内作業療法の違いについて理解することができる。 2　生活行為向上マネジメントの概要を理解することができる。 3　医学モデルと生活モデルの違いについて理解することができる。 4　地域で生活していく生活能力を高める為のストレングスを理解することができる。			評価方法			
				期末試験　100% （100点換算で60点以上で合格）			
授業概要	病院内リハから多様な場面へと活動の場を広げるOT,歴史や他国の現状も踏まえて今後の展開を学習します。						
教科書等	標準作業療法学　専門分野 地域作業療法学	使用器材	パソコン				

週	授 業 項 目 ・ 内 容	実施結果
第1週	「地域」とは 作業療法士の資質と倫理（地域作業療法の重要性について理解できる）	
第2週	地域の理解、地域の流れ(地域で生活する為にどんなことが重要か理解できる)	
第3週	障害者の自立(自律と自立の違いについて理解できる)	
第4週	介護保険1(介護保険の成り立ちと歴史的背景について理解できる)	
第5週	介護保険2(制度の中身と改正点について理解することができる)	
第6週	ケアマネジメント(ケアマネジメントの重要性について理解できる)	
第7週	地域保健・福祉サービス(公的・私的社会資源について理解することができる)	
第8週	諸外国の福祉事情(日本における医療・福祉の特徴を理解できる)	
第9週	生活行為向上マネジメントについて概要を理解できる	
第10週	生活行為向上マネジメント(症例を通して理解を深める)	
第11週	地域の社会資源　と作業療法の繋がりを理解する	
第12週	サービス事業所の実際1	
第13週	サービス事業所の実際2	
第14週	まとめ(講義の振り返りと期末試験対策)	
第15週	まとめ	
授業外 学習指示等	教科書だけでなく論文(先行研究)にも目を通してから授業に参加すること	

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科　2年	科目名	中枢神経系作業療法学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院で整形外科・内科・外科勤務歴11年	担当者	三好　和則	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	①難病疾患（脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症，多発性硬化症，ギラン・バレー症候群，Parkinson病）の障害像を理解する。 ②各疾患の作業療法評価およびゴール設定を理解する。 ③各疾患の作業療法アプローチについて理解する。			評価方法			
授業概要	日常臨床で遭遇する可能性の高い神経疾患（脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症，多発性硬化症，ギラン・バレー症候群，Parkinson病）を中心に，その病因，病態，診断，治療について学習し各疾患への理解を深めることを目的とする。			期末試験　100% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	作業療法技術ガイド 身体機能作業療法学	使用器材	パソコン				

週	授 業 項 目 ・ 内 容		実施結果
第1週	神経難病について	神経難病とは、について理解・学習する。	
第2週	パーキンソン病（1）　P.352～P.353	パーキンソン病とは、医学的治療と作業療法の関連について学びます。	
第3週	パーキンソン病（2）　P.353～P.356	評価及び目標について学びます。	
第4週	パーキンソン病（3）　P.356～P.359	一般的なプログラムについて学びます。	
第5週	脊髄小脳変性症（1）　P.360～P361	脊髄小脳変性症とは、医学的治療と作業療法の関連について学びます。	
第6週	脊髄小脳変性症（2）　P.361～P.363	評価及び目標について学びます。	
第7週	脊髄小脳変性症（3）　P.363～P.366	一般的なプログラムについて学びます。	
第8週	筋萎縮性側索硬化症（1）　P.367～P.368	筋萎縮性側索硬化症とは、医学的治療と作業療法の関連について学びます。	
第9週	筋萎縮性側索硬化症（2）　P.368～P.369	評価及び目標について学びます。	
第10週	筋萎縮性側索硬化症（3）　P.369～P.373	一般的なプログラムについて学びます。	
第11週	多発性硬化症（1）　P.336～P.338	多発性硬化症とは、医学的治療と作業療法の関連について学びます。	
第12週	多発性硬化症（2）　P.338～P.341	評価及び目標、一般的なプログラムについて学びます。	
第13週	ギランバレー症候群（1）　P.342～P.344	ギランバレー症候群とは、医学的治療と作業療法の関連について学びます。	
第14週	ギランバレー症候群（2）　P.344～P.346	評価及び目標、一般的なプログラムについて学びます。	
第15週	まとめ		
授業外学習指示等	1.講義に臨む前は教科書の該当個所を読んでおき、わからない所があったらそれらを書き出しておくこと。 2.復讐は、特にその日の授業の授業の重要事項をその日のうちに振り替えること。		

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科　2年	科目名	職業リハビリテーション学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	三好　和則	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1　作業療法士に必要な職業関連活動に関する知識を修得することができる。 2　作業療法士に必要な職業関連活動に関する評価法を理解することができる。 3　作業療法士に必要な職業関連活動に対するアプローチの知識を理解できる。 4　障害者が職業を通して社会参加できるメリットを理解することができる。			評価方法			
授業概要	作業療法士が携わる職業リハビリテーションの現状と課題、評価法、アプローチ法を整理する。			期末試験　100% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	作業療法学全書（職業関連活動）	使用器材	配布資料				

週	授 業 項 目 ・ 内 容	実施結果
第1週	職業関連活動概説（教科書　第1章）	
第2週	障害者と職業①（教科書　第2章）	
第3週	障害者と職業②（教科書　第2章）	
第4週	職業関連活動における作業療法①　（教科書　第3章）	
第5週	職業関連活動における作業療法②　（教科書　第3章）	
第6週	障害別就労支援の実際　統合失調症①　（教科書　第4章）	
第7週	障害別就労支援の実際　統合失調症②　（教科書　第4章）	
第8週	障害別就労支援の実際　うつ病①　（教科書　第4章）	
第9週	障害別就労支援の実際　うつ病②　（教科書　第4章）	
第10週	障害別就労支援の実際　身体障害①　（教科書　第4章）	
第11週	障害別就労支援の実際　身体障害②　（教科書　第4章）	
第12週	障害別就労支援の実際　高次脳機能障害　（教科書　第4章）	
第13週	障害別就労支援の実際　知的障害　（教科書　第4章）	
第14週	期末試験対策	
第15週	まとめ	
授業外 学習指示等	講義の内容を理解して、文章でまとめれるように適宜復習を行っていくこと。	

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科　2年	科目名	精神障害評価学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院精神科勤務歴15年	担当者	山下　眞智子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1..精神障害領域の疾患ごとの評価方法について理解する。 2.評価実習、臨床実習に備えた評価の実践方法、報告書の書き方等を学ぶ。			評価方法			
授業概要	精神科作業療法の評価について前期履修した内容を踏まえ、各疾患ごとの評価について学び、臨床実習等の諸場面に対応できるようにする。			期末試験　70% 症例レポート　30% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	精神障害作業療法学	使用器材					

週	授 業 項 目 ・ 内 容	実施結果
第1週	精神科　評価尺度　①　　統合失調症　　資料	
第2週	精神科　評価尺度　②　　気分障害　　資料	
第3週	精神科　評価尺度　③　　依存性障害　　資料	
第4週	精神科における作業療法理論　　P58・P85 資料	
第5週	精神科における作業活動　　資料	
第6週	精神科作業療法の治療構造　　P142	
第7週	精神治療、援助の場　　P157	
第8週	地域作業療法学　　P274	
第9週	就労支援・制度等　　P273	
第10週	症例　　P331	
第11週	症例	
第12週	実習対策　記録　　資料	
第13週	症例研究のまとめ方　　資料	
第14週	症例研究のまとめ方　　資料	
第15週	まとめ	
授業外 学習指示等	後半、症例レポートの提出指示があります。	

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科　2年	科目名	精神障害治療学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院精神科勤務歴15年	担当者	山下　眞智子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1..精神科作業療法の疾患ごとの治療について理解する。 2.精神科作業療法、疾患別治療の流れ 3.症例検討 4.国試問題を理解する。			評価方法			
授業概要	精神科の各疾患ごとの治療の流れを理解し、それらに対してどのような作業療法がなされているかを疾患ごとに理解する。また、併行して国試問題にも取り組む。			期末試験　100% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	精神障害作業療法学	使用器材	必要に応じてPC その他				

週	授 業 項 目 ・ 内 容	実施結果
第1週	疾患別治療（統合失調症）①　P192	
第2週	疾患別治療（統合失調症）②　資料	
第3週	気分障害①　P 201	
第4週	気分障害②　資料	
第5週	依存症候群　①　P184	
第6週	依存症候群　②　資料	
第7週	神経症候群　①　P212	
第8週	神経症候群　②　P224	
第9週	パーソナリティ障害　P231	
第10週	発達障害　P239	
第11週	てんかん　P253	
第12週	国試問題	
第13週	国試問題	
第14週	症例検討	
第15週	まとめ	
授業外 学習指示等	国試問題を疾患ごとに提示しますので各自で解いてみる。	

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科　2年	科目名	内部障害系作業療法学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院、地域医療での勤務9年	担当者	樋口　浩幸	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1　各内部障害に関する解剖学・生理学の知識を修得する 2　各内部障害に対する評価法を修得する 3　各内部障害に対する作業療法アプローチの知識を修得する 4　各内部障害に対するリスク管理に関する知識を修得する			評価方法			
授業概要	各内部障害に対する作業療法を実施できることを目標とする。 具体的には、各疾病の特徴について理解し、その医学的治療、作業療法評価（検査） の選定、得られた検査・測定の結果を分析し、その病期にあった治療・指導・援助を立案することができる。			期末試験　100% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	PT・OT入門　イラストでわかる内部障害	使用器材	配布資料、吸引シュミレータQちゃん				

週	授 業 項 目 ・ 内 容	実施結果
第1週	内部障害とは　循環器の解剖と生理を理解する（教科書P110～P157）	
第2週	検査データ、心電図の見方を理解する（教科書P110～P157）	
第3週	虚血性心疾患とそれに対する作業療法アプローチについて理解する（教科書P110～P157）	
第4週	心不全とそれに対する作業療法アプローチについて理解する（教科書P110～P157）	
第5週	冠動脈・大動脈疾患とそれに対する作業療法アプローチについて理解する（教科書P110～P157）	
第6週	心臓リハビリテーションにおける運動療法と作業療法アプローチについて理解する（教科書P110～P157）	
第7週	呼吸器の解剖と生理を理解する（教科書P86～P109）	
第8週	呼吸器の生理、評価、病的呼吸を理解する（教科書P86～P109）	
第9週	閉塞性肺疾患とそれに対する作業療法アプローチについて理解する（教科書P86～P109）	
第10週	拘束性肺疾患とそれに対する作業療法アプローチについて理解する（教科書P86～P109）	
第11週	糖尿病とそれに対する作業療法アプローチについて理解する（教科書P176～P195）	
第12週	悪性腫瘍（がん）とそれに対する作業療法アプローチについて理解する（教科書P131～P157）	
第13週	サルコペニアとリハビリテーション栄養について理解する（教科書P158～P175）	
第14週	腎疾患と下部尿路機能障害と作業療法アプローチについて理解する（教科書P196～P215）	
第15週	まとめ	
授業外学習指示等	講義の中で確認問題を実施していく。適宜復習を行っていくこと。	

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科　2年	科目名	作業療法評価学演習(OSCE)	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院、地域医療での勤務9年	担当者	樋口　浩幸	授業方法	演習	単位数	2
到達目標	①指定された検査を理解している ②即座に行動が出来る ③適切に患者さまの状態を把握することが出来る ④正確にオリエンテーションが出来る ⑤指定された時間内に安全に実施できる			評価方法			
授業概要	臨床現場を想定し、これまで習ってきた基本評価を、実際に患者さまを想定して、実演できる技術を習得する。また、技術だけでなく医療現場に適した接遇や態度等も理解し習得する。			期末試験　100% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	PT・OTのための臨床技能とOSCE	使用器材					

週	授 業 項 目 ・ 内 容	実施結果
第1週	リスク管理、コミュニケーション技法、上肢管理、下肢装具の装着管理（教科書P16～P67）	
第2週	車いすの駆動介助、移乗介助（教科書P68～P99）	
第3週	療法士面接（教科書P100～P116）	
第4週	バイタルサイン測定（教科書P117～P140）	
第5週	関節可動域測定①（教科書P141～P168）	
第6週	関節可動域測定②（教科書P141～P168）	
第7週	筋力測定①（教科書P169～P197）	
第8週	筋力測定②（教科書P169～P197）	
第9週	感覚検査（教科書P241～P255）	
第10週	反射検査（教科書P256～P265）	
第11週	形態測定検査（教科書P266～P273）	
第12週	脳卒中の麻痺側運動機能の評価（教科書P274～P294）	
第13週	運動失調検査（教科書P317～P329）	
第14週	立位バランスの評価（教科書P330～P338）	
第15週	まとめ	
授業外 学習指示等	1.講義に臨む前は教科書の該当個所を読んでおき、わからない所があったらそれらを書き出しておくこと。 2.復習は、その日の授業の重要事項をその日のうちに振り替えること。	

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科　2年	科目名	高次脳機能障害作業療法学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院勤務で脳疾患、リハビリ系勤務歴20年	担当者	小渕　由美子　　印	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 各論の症状のメカニズムを理解して評価や治療に取り組める 2. 症例や演習をとおして学んだ評価法や治療について、臨床で活用できる 3. 対象者の症状や環境を考慮し、生活上の困難を解決するための作業療法を柔軟に展開することができる			評価方法			
授業概要	高次脳機能作業療法の評価・治療まで体系的に学ぶ。様々な障害や症状のメカニズムを理解した作業療法を実践できるように知識を深め、症例を通じて臨床に応用できる治療法を学ぶ			期末試験　90% レポート等　10% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	高次脳機能作業療法学第2版　医学書院	使用器材	視聴覚機器の使用、配布資料等				

週	授 業 項 目 ・ 内 容	実施結果
第1週	第2章　Ⅵ:失認（対象認知の障害）に対する作業療法 特定の感覚様式の失認の1つである視覚失認の3つに分類について学ぶ	
第2週	第2章　Ⅵ:失認（対象認知の障害）に対する作業療法： 視覚失認の責任病巣とメカニズム、評価方法や治療について学ぶ	
第3週	第2章　Ⅵ:失認（対象認知の障害）に対する作業療法　身体に関連する（認知障害としての） 失認について種類やそれぞれの責任病巣やメカニズムについて学ぶ	
第4週	視覚:失認について症例をとおしてその実際を学ぶ	
第5週	DVD視聴：脳が世界を作る　視覚情報の処理や立体視、同名半盲について学ぶ	
第6週	第2章　Ⅵ半側空間無視　DVD視聴：面接所見から高次脳機能障害の推測 半側空間無視の行動の特徴や机上検査から得られる症状を学ぶ	
第7週	第2章　Ⅵ半側空間無視　：責任病巣と代表的な4つのメカニズムと治療を学ぶ DVD：半側空間失認の後遺症との闘い　重複する症状とリハビリテーションについて学ぶ	
第8週	半側空間無視について症例をとおしてその実際を学ぶ	
第9週	第2章　Ⅰ注意障害　評価方法について演習	
第10週	第2章　Ⅰ注意障害　注意の分類と注意障害について学ぶ トップダウンアプローチ：自己教示法について演習	
第11週	第2章　Ⅱ記憶障害：定義と分類、責任病巣を学ぶ。 記憶障害のリハビリテーションストラテジー：誤りなし学習について演習	
第12週	第2章　Ⅶ　遂行機能障害：分類と遂行機能障害の構成要素について学ぶ	
第13週	第2章　Ⅷ　社会的行動障害：社会的行動障害の分類と責任病巣について学ぶ 第4章　高次脳機能障害と社会復帰支援：高次脳機能障害支援事業の背景と診断基準	
第14週	全体総括と試験対策	
第15週	まとめ	
授業外 学習指示等	評価法や治療方法の演習も取り入れて学習を深めていきます。講義で国家試験問題なども実施します。 知識や技能を深め、臨床で自信を持って行動できるように学習して下さい	

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科　2年	科目名	日常生活活動学演習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	林　あゆみ	授業方法	演習	単位数	2
到達目標	・心身障害（疾患別）のADLを理解する。 ・ADL評価ができる。			評価方法			
授業概要	作業療法士は障害を持つ対象者の日常生活活動を改善する役割を果たさなければならない職種であり、また、それが求められている。よって、より広い視野を持ち、より広い生活を援助していく為の知識・技術・態度を理解していく。			期末試験　100% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	日常生活活動学　ー評価と支援の実際ー 新イラストによる安全な動作介助の手引き	使用器材	資料（FIMの実際　等）				

週	授 業 項 目 ・ 内 容	実施結果
第1週	日常生活活動（基本動作含む）とは セルフケアとは	
第2週	疾患別ADLー（　脳血管障害　）	
第3週	疾患別ADLー（　脳血管障害、脊髄小脳変性症　）	
第4週	疾患別ADLー（　筋委縮性側索硬化症、脊髄損傷　）	
第5週	疾患別ADLー（　脊髄損傷、関節リウマチ　）	
第6週	起居動作分析　（　寝返り、起き上がり　）	
第7週	生活関連動作とは	
第8週	生活関連動作分析　1	
第9週	生活関連動作分析　2	
第10週	ADL評価　－　1　（　Berthel　INDEX、FIM　）	
第11週	ADL評価　－　2　（　FIM　）	
第12週	ADL評価　－　3　（　FIM　）	
第13週	まとめ　1	
第14週	まとめ　2	
第15週	まとめ	
授業外 学習指示等	実技テストを実施します。	

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科　2年	科目名	発達作業療法学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	発達障害研究所を開設運営	担当者	井ノ口　征幸	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 「発達障害」及び「運動障害」を理解する。 2 それぞれの障害について、基本的な作業療法の知識を修得し理解する。			評価方法			
授業概要	「運動障害」及び「発達障害」について、作業療法士としての役割と技術を学習するものとする。			期末試験　90% 授業態度　10% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	標準作業療法学　専門分野 発達過程作業療法学	使用器材	PC、液晶プロジェクター、配布資料				

週	授 業 項 目 ・ 内 容	実施結果
第1週	精神発達遅延	
第2週	精神発達遅延	
第3週	自閉症スペクトラム	
第4週	自閉症スペクトラム	
第5週	学習障害	
第6週	注意欠如／多動性障害	
第7週	脳性麻痺	
第8週	脳性麻痺	
第9週	重症心身障害	
第10週	新生児疾患	
第11週	進行性筋ジストロフィー	
第12週	骨関節疾患	
第13週	二分脊椎	
第14週	その他（子どもの高次脳機能障害、内部障害など）	
第15週	まとめ	
授業外 学習指示等	1　講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 2　授業内容を復習し、疑問点があれば次の授業で質問すること。	

令和5年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科　2年	科目名	義肢装具学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院で運動療法機能分野勤務歴7年	担当者	松谷　信也	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	①義手・義足の基礎知識について理解する。 ②補装具の支給体系について理解する。 ③装具の種類と適応について理解する。 ④スプリントの製作工程について理解する。 ⑤基本的なスプリントが製作できる。			評価方法			
授業概要	義肢・装具、スプリントは障害を持つ人々のリハビリテーションや疾患に対する治療方法の一手段として広く用いられている。まずは義肢装具の基礎知識を習得し、臨床的な側面について理解を深めることを目標とする。			期末試験　100% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	義肢装具と作業療法、身体機能作業療法学、作業療法評価学、作業療法技術ガイド作業療法学全書　作業療法学Ⅰ　義肢装具学	使用器材	パソコン、液晶プロジェクター、マイク				

週	授 業 項 目 ・ 内 容		実施結果
第1週	義手（1）	切断について、義手の基本構造・分類・部品について理解・把握する。	
第2週	義手（2）	装飾用義手・能動義手・作業用義手のしくみについて理解する。	
第3週	義手（3）	義手の適合判定（チェックアウト）を理解・把握する。	
第4週	筋電義手	筋電義手について理解する。	
第5週	装具について	上肢装具/スプリントについて目的と意義を理解・学習する。	
第6週	上肢装具	代表的な上肢装具の種類などを理解・学習する。	
第7週	下肢装具	目的と意義、装具の種類などを理解・学習する。	
第8週	スプリント（1）	作製方法と一般的な工程などを理解・学習する。	
第9週	スプリント（2）	コックアップスプリントを作成できる。	
第10週	疾患別装具・スプリント（1）	脳卒中・頸髄損傷で用いる装具・スプリントを学習する。	
第11週	疾患別装具・スプリント（2）	関節リウマチで用いる装具・スプリントを学習する。	
第12週	疾患別装具・スプリント（3）	骨折で用いる装具・スプリントを学習する。	
第13週	疾患別装具・スプリント（4）	腱損傷で用いる装具・スプリントを学習する。	
第14週	疾患別装具・スプリント（5）	末梢神経損傷で用いる装具・スプリントを学習する。	
第15週	まとめ		
授業外学習指示等	1.講義に臨む前は教科書の該当個所を読んでおき、わからない所があったらそれらを書き出しておくこと。 2.復讐は、特にその日の授業の授業の重要事項をその日のうちに振り替えること。		